

## 下肢動脈閉塞(下肢 ASO)に対する末梢血管治療(EVT)における QVA 校正方法の検討

## [背景]

当院における下肢動脈閉塞(下肢 ASO)に対するカテーテル治療では血管内超音波を使用し血管径の計測を行いデバイスサイズを決定している。今回我々は、より簡便な方法として定量的血管解析(QVA)による計測法を用い、より誤差が少ない校正方法について検討を行った。

## [方法]

内径の異なる模擬血管を作成し、造影カテーテルでの校正、寝台から目的血管までの距離を用いた校正(ARP法)、球体を用いた校正の3つの方法で比較検討した。

## [結果]

t 検定において6mm, 9mmではARPは有意に誤差が少なく、12mmではARPと7Frに差はなく、その他とも有意に誤差が少ない結果であった。(Table 1 参照)

## [考察]

今回の基礎的検討においてカテーテル法は実際の臨床ではカテーテル-狭窄部間の距離が大きく使用が難しい。ARP法は他の方法と比較しても精度が高く、臨床使用において術前CTやMRIを用い、事前に血管までの距離を測定することにより容易に使用できると考える。

## [結語]

当院では下肢ASOに対するEVTではARP法による校正が臨床使用に適切と考える。

Table 1 模擬血管径とQVAによる実測値

校正方法 模擬血管径 [mm]	6Fr	7Fr	sphere	ARP
	QVA実測値 [mm]			
6	5.31	5.85	5.82	5.88
9	8.15	8.97	8.94	9.01
12	11.67	11.78	11.71	11.82